

合同分科会 2022年度会合

観る、識る、解る、届ける (2)

以前は研究に使える航跡データがほとんど存在しませんでした。それでは未来の航空交通の研究を進められなうので、一〇十五年からCARATS OPEN DATAの提供が開始されました。



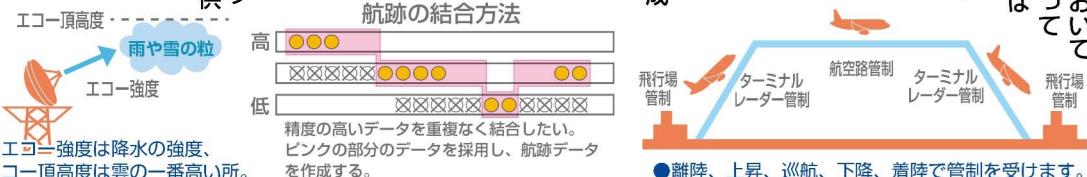
データ化が世界中に広がっており、データをただ提供するだけではなく、再利用しやすい形で公開するようになっています。日本でも将来の航空交通システムを見据え、改革の方向性を記述した

国土交通省航空局が
提供してくるCARTS
Open Dataを紹介
いたしました。



講演 研究開発促進のための 航空交通データの是非

研究開発促進の取組として、フォーラムの開催、CARATSカードの設置などを行って、動画表示ツールの提供などもしております。これらにより、データを利用する機関も増えてきており、航空交通管制以外の分野での研究事例も出てきています。



航跡データはエリアを拡充しながらデータを増やしていますが、各システムのエリアでデータが重複しているので、それらを精度の高いデータを優先した結合を行っています。

航跡データは時刻、便名、緯度、経度、高度、型式から成っています。レーダーサイトからの距離と方位情報が処理装置に集められるので、このデータを座標変換して、航跡データを作成しています。

航空管制は航空交通において非常に重要な役割を担って
います。航空管制業務は
航空機の飛行状況に
応じて行われています。

https://www.enri.go.jp/research/carats_open_data/index.html

奈良県の東大寺の
七重の塔をデジタル
で再現して見せる
仕事がありました。
大仏も再現したのです。
それを見た東大寺の
友の会の方が感激して
涙を流していらした。
デジタルでも人の心を
動かすことができるん
だと思いました。



デジタル化された情報が
残っていく環境で、
それを前提に生きて
行かないとならない。
そのために情報の価値、
人間のデジタル化の意味
を考えないとならない。

文明というのは、そこに暮らす人は逃れられない規範、慣習、制度があつて、全員がそれらを共有しているということです。

20年後のイメージ図を描いたなんですが、その絵は、現在ではなんの不自然さもない絵です。今は学生と「一〇五〇年頃の話をしようよ」と言つてます。

講演 サイバー文明時代のパー Cybernetic Avatar

人は生まれて、約百年で死んだとしても、そのデータは十年単位で使われていくことになるでしょう。



確認できるのが、
していきます。



インターネットを100億人使うようになったら世の中はどうなるか。

人が
きの標榜がたくさん埋も
てあります。どうしてかと聞かれ
て、お答えします。

link net/